

科目名	基礎看護学実習 I		時期	1年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 日数	1単位(35時間) 6日
科目の概要	本実習で、看護学生として初めて看護の対象と看護活動の実際の場に臨む。既習の基本的な看護の概念・看護の対象・看護理論(ナイチンゲール・ヘンダーソン)の視点の視点を持って、実際の看護活動や看護の対象者の状況に触れ関連した理解を深める。あわせて、実習での看護学生としての基本的な姿勢を学び、これから学ぶ看護の内容への意味を探究する力も養う。			
目的	健康障害を持つ人を理解し、状態に応じた看護を実践するための基礎的な知識、技術、態度を修得する			
目標	1 入院生活を送る対象の思いや体験していることに関心をむけ、コミュニケーションを図り、基本的ニーズを理解する 2 対象の入院している環境を知る(理解する) 3 病棟での看護活動を見学し、看護がどのように実践されているかを理解する 4 実習を通して看護の魅力を発見し、学習者としての態度を修得する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
評価	実習評価表に基づき評価する			
授業計画				
日	時間	実習内容		実習場所
1	6.5	1 実習オリエンテーション:実習の概要を知り、実習に臨む準備を整える 2 事前学習：入院環境・看護活動について 既習の知識をまとめ、今回の実習で実際に学ぶ具体的な視点を明確にする。 3 病棟看護師との交流		学内
2 ～ 3	13	1 病棟オリエンテーション：実習病棟の概要を知り、入院環境の理解を深める 2 看護師に同行し、患者とのコミュニケーションの実際を見学する 3 看護師に同行し、看護活動を見学し、患者の検査や他科診受診などに同行する		新発田病院 リウマチセンター
4 ～ 5	13	1 看護の対象である入院患者の現状について理解する 1)入院生活の思いや体験していることを知る。 2)対象の反応を観察し、言動や言動以外で表現していることにも関心をむけたコミュニケーションをはかる。 3)患者の療養生活としての一日の状況を理解する 2 対象の病床環境を知り、基本的な環境整備を実施する 3 看護師とのカンファレンス 1)見学した看護活動の意味と重要性について明確にする 2)対象の環境を知り、完全・安楽・快適な療養環境について考察する		新発田病院 リウマチセンター
6	2.5	実習のまとめ 全体カンファレンス		学内

*詳細については、基礎看護学実習 I オリエンテーションで説明する。

科目名	基礎看護学実習Ⅱ		時期	2年次 前期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 日数	1単位(35時間) 6日間
科目の概要	本実習では、基礎看護学実習Ⅰで習得した内容に加えて、臨床場面において、健康障害をもつ対象の現状の理解を広げ、基本的な看護技術の援助を実践する。学生は、受け持ち患者の生活行動・機能の視点での範囲において、主体的に情報収集をすすめる。さらに患者の健康障害について、基本的な疾患の理解と現状で行われている範囲での検査・治療・看護について学び、これらの情報の範囲でアセスメントをする。基本的な看護の援助の計画を立案し、看護師(教員も含む)の判断・見守りのもと実施し、評価する。実習を通して、今後の看護を実践する意義や魅力を探求する力を養う。			
目的	健康障害を持つ人を理解し、状態に応じた看護を実践するための基礎的な知識、技術、態度を修得する			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 対象の疾患と受けている検査や治療と看護について理解する 2 生活行動・機能の視点に沿って対象の状態をアセスメントする 3 対象の状態に合わせた日常生活援助を看護師とともに実施する 4 看護における疑問や問題に気づき、グループメンバーと協力しながら、その解決に向けて積極的に取り組める 			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
評価	実習評価表に基づき評価する			
授 業 計 画				
日	時間	実 習 内 容		実習場所
1	6.5	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習オリエンテーション：実習の概要を知り、実習に臨む準備を整える 2 事前学習：受け持ち患者に関する疾患、検査、看護の状況について 3 病棟看護師との交流 		学内
2 ～ 3	13	<ol style="list-style-type: none"> 1 病棟オリエンテーション：病棟実習の概要を知る 2 看護師に同行し、患者への援助(主に、バイタルサインの測定、清潔・食事・排泄・移動時の援助)を見学した後、受け持ち患者のバイタルサインの測定と環境整備を実施する。 3 受け持ち患者の疾患・治療・検査・看護について看護師・教員からの助言を受けて情報収集する。 4 受け持ち患者とコミュニケーションをはかり、対象の生活行動・機能の視点に沿って情報整理とアセスメントする 		新発田病院 リウマチセンター
4 ～ 5	13	<ol style="list-style-type: none"> 1 受け持ち患者への日常生活援助の計画の立案 ・対象の状態に合わせた日常生活援助計画を具体的に記述する 2 看護師との計画カンファレンス ・看護師と打ち合わせて、患者にあわせて創意・工夫した援助の計画を作成する 3 立案した計画の実施と評価 ・看護師の見守りのもと患者の状況をアセスメントした上で援助を実施する ・実施した援助の結果について、対象の反応も受けとめ、客観的に記述する 4 看護師とのカンファレンス ・今回の実習を通して学んだ内容を明確にし、自己の課題や看護の魅力について話し合い、課題の解決に向けて考察する 		新発田病院 リウマチセンター
6	2.5	実習のまとめ 全体カンファレンス		学内

*詳細については、基礎看護学実習Ⅱオリエンテーションで説明する。

科目名	基礎看護学実習Ⅲ		時期	2年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 日数	2単位(70時間) 11日間
科目の概要	本実習では基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱで修得した実習の基本となる内容に加えて、看護過程の思考をもって実際に看護展開を実施する。受け持ち患者の情報収集、アセスメント、全体像の把握、看護問題の明確化、看護計画の立案、援助の実践、看護目標の評価まで、助言を受けながら主体的に進める。看護実践の基礎となる本実習を通して、看護に対する価値を見出し、自己の課題を明確にし、を探求する力を養う。			
目的	健康障害を持つ人を理解し、状態に応じた看護を実践するための基礎的な知識、技術、態度を修得する。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 患者の情報をゴードンの11項目の視点で収集する 2 情報を整理し、患者の反応が意味することを分析・解釈する 3 アセスメントに基づき患者の関連図を図示し、患者の全体像を文章化する 4 対象に生じている看護問題を明確化できる 5 対象の看護問題について看護計画を立案する 6 看護計画に基づき、対象にあわせて創意・工夫した援助を実践する 7 実施した援助の結果を客観的に記述することができる 8 看護目標に基づいて達成度を評価し、記述する 9 看護における疑問や問題に気づき、その解決に向けて積極的に取り組む 10 看護実践を通して看護に対する価値を見出す 			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
実習施設	学内、県立新発田病院、県立リウマチセンター			
授 業 計 画				
日数	時間	実 習 内 容		実習場所
1	6.5	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習オリエンテーション：実習の概要を知り、実習に臨む準備を整える 2 事前学習：受け持ち患者に関する疾患、検査、看護の状況について 		学内
2 ～ 6	32・5	<ol style="list-style-type: none"> 1 病棟オリエンテーション：病棟実習の概要を知る 2 看護師による受け持ち患者への看護援助の見学・参加、ベッドサイド環境整備・バイタルサインの測定の実施 3 受け持ち患者についてゴードンの11項目の視点から情報収集とアセスメント 4 看護師と受け持ち患者への看護について方向性のカンファレンス <ul style="list-style-type: none"> ・情報を関連付けて全体像を記載し、看護問題の原因や誘因、成り行き、看護の方向性を示す ・原因・誘因を踏まえた看護問題を見出す 		新発田病院 リウマチセンター
7 ～ 10	26	<ol style="list-style-type: none"> 1 受け持ち患者への看護援助の計画の立案 <ul style="list-style-type: none"> ・看護目標は評価可能な行動レベルで表現する ・個別性のある計画を立案する 2 看護師と受け持ち患者への計画についてカンファレンス 3 対象の状況や状態に応じ、安全・安楽を考慮した援助を実践する 4 立案した計画の実施と評価 <ul style="list-style-type: none"> ・実践した看護援助を対象の反応とともに振り返る ・達成できた要因、達成できなかった要因から評価する ・次の援助につなげる視点を見出す 5 看護師とのカンファレンス <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換し意見や評価を受け止め自己の課題を主体的に学習する 		新発田病院 リウマチセンター
11	5	実習のまとめ 全体カンファレンス		学内

*詳細については、基礎看護学実習Ⅲオリエンテーションで説明する。

科目名	地域・在宅看護論実習		時期	3年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 日数	2単位(70時間) 11日間
科目の概要	本実習では、在宅で生活する療養者・家族を統合的に理解し、尊厳ある生活の継続に向けた看護実践能力を養う。また在宅療養者の生活を支援するための社会資源活用の体験を通して、在宅ケアチームの一員として看護師の位置づけと役割について理解する。在宅療養をする人々とその家族のQOL向上を目指した援助の実際を学ぶとともに、地域包括ケアシステムにおける入退院支援、訪問看護ステーションの機能とそこで働く看護職の役割および関係機関・多職種との連携の重要性を理解する。			
目的	地域で生活している在宅療養者・要介護者・その可能性のある者とその家族を理解し、対象に応じた看護を実践するための知識・技術・態度を修得する			
目標	1 地域で生活している対象の特性を理解し、家族全体を統合して捉えることができる 2 地域で生活している対象の特性に応じた援助方法を学ぶ 3 対象が生活している地域のケアシステムや、保健・医療・福祉領域の社会資源について理解を深め、関係機関・多職種との連携と協力して必要な看護を実践する方法を学ぶ 4 対象が地域で生活し続けるための在宅看護のあり方とケアシステムや社会資源について考察する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
評価	実習評価表に基づき評価する			
授 業 計 画				
日数	時間	実 習 内 容		実習場所
1	5	1 実習オリエンテーション 2 事前学習の確認、自己学習		学内
2 ～ 8	45.5	1 訪問看護ステーションの概要、地域・施設の特徴、訪問看護の特性、訪問先の情報収集 2 療養者とその家族の健康状態・精神的状態・生活スタイル・価値観・療養環境 3 家族の介護状況と生活への影響、精神的負担程度、家族の抱える問題、介護力 4 同行訪問による生活状況の観察と援助・訪問看護師の臨床判断の実際 1)介護者の介護方法を尊重し、家庭内の物品を有効利用して日常生活の援助を実施する。 2)療養者とその家族の話を傾聴し、それぞれのQOLを捉えた訪問看護師の役割について考察する。 3)訪問看護師に同行し、見学介助を行いながら援助の実際を経験する。 4)複数訪問事例を経験し、訪問を通して対象理解を深め、1事例について情報把握から実施までの看護過程を展開する。		訪問看護ステーション
9 ～ 10	13	1 地域包括支援センターの活動内容、居宅介護支援事業所の活動内容 1) 職員の在宅訪問・介護相談等と同行し、職員の役割を把握する。 2 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターの職員と同行、訪問し活動内容の見学 1) 地域で行われている、介護予防や介護支援・相談の実際を見学する。 2) 相談・調整・訪問活動等の見学を通して対象の理解を深め、対象の特性に応じた援助方法を学ぶ。 3 地域で生活する人の健康・生活維持するための社会資源の活用、サービス提供の実際 1) 各施設の機能と役割を学ぶとともに、地域で生活する対象を支えるための社会資源やケアシステムについて理解する。ケアシステムにおける関連機関・多職種の連携の実際とそれぞれの果たす役割を理解する。		地域包括支援センター 居宅介護事業所
11	6.5	1 まとめた看護過程事例の報告会 2 最終カンファレンス実習中のカンファレンス、報告会を通して学習体験を共有し、学びを深める。 3 実習後に下記の2点の課題についてレポートをまとめ、実習での学びを整理する。 ① 地域で生活している対象の特性を踏まえた在宅における看護のあり方について ② 対象が地域で生活するためのケアシステム・社会資源および関係機関と多職種連携のあり方について		学内

*詳細については、地域・在宅看護論実習オリエンテーションで説明する。

科目名	成人・老年看護学実習 I		時期	2 年次 後期
担当者	看護師として 5 年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 日数	2 単位(70 時間) 11 日間
科目の概要	回復期・慢性期にある対象の健康レベルとライフサイクルからみた成人期・老年期の発達段階を理解し、対象とその家族における看護過程の展開を通して、看護実践に必要な能力を養い、慢性期・回復期看護のあり方を学ぶ。健康障害を受容し、セルフケア能力獲得に向けた支援と健康の維持・増進と対象の QOL 維持・向上を支えるための保健・医療・福祉の役割とチーム体制を理解する。			
目的	回復期・慢性期にある対象とその家族を理解し、セルフケア・セルフマネジメントの獲得を促す看護を実践するための知識・技術・態度を修得する。健康問題や生活環境をアセスメントし、対象を取り巻く保健・医療および福祉の連携を学ぶ。			
目標	1 回復期・慢性期にある対象とその家族の特徴を理解する 2 回復期・慢性期にある対象とその家族の健康問題を理解する 3 回復期・慢性期にある対象とその家族の健康問題の解決に向けた個別的な看護計画を立案し、実践、評価する 4 回復期・慢性期における対象とその家族への看護実践を振り返り、看護の価値を考察する 5 保健・医療・福祉システムとチーム体制における看護の機能を理解する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
実習施設	学内、県立新発田病院(病棟)、県立リウマチセンター(病棟)			
評価	実習評価表に基づき評価する			
授 業 計 画				
日	時間	実 習 内 容		実習場所
1	5	実習の概要と実習病棟・実習施設の特徴について説明を受ける		学内
2 ～ 10	58.5	病院で回復期・慢性期看護にある成人期・老年期の対象を受持ち、看護過程を展開する 1) ライフサイクルからみた成人期・老年期の発達段階の特徴を理解する 2) 回復期・慢性期における治療とその効果、健康障害の特徴を理解する 3) 成人期・老年期の対象に与える治療の影響を理解する 4) 回復期・慢性期看護にある成人期・老年期の健康問題の解決に向けた看護計画を立案し、実践、評価する ・ライフスタイルと生活環境を踏まえた支援 ・ヘルスプロモーションを促進する看護 ・エンパワメントを考えた支援 ・セルフケアの獲得とセルフマネジメントを推進する看護実践 ・慢性期・リハビリテーション期における看護 ・合併症と二次障害を予防する看護 ・行動変容を促進する看護アプローチ ・対象の QOL 維持・向上のための支援 ・生活を継続するための家族支援 5) 対象の生活の再構築に向けた保健・医療・福祉システムの連携と病院における多職種専門性とチームアプローチ、チームにおける看護師の役割について理解する		新発田病院 リウマチセンター
11	6.5	学んだことを発表し、グループでディスカッションを行い、学びの共有を図る		学内

*詳細については、老年看護学実習オリエンテーションで説明する。

科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ		時期	2 年次 後期
担当者	看護師として 5 年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 日数	2 単位(70 時間) 11 日間
科目の概要	成人期・老年期にある対象の健康問題に対してライフサイクルを加味し、生命の危機状態や周術期にある対象者とその家族における看護過程の展開を通して、疾患・病態治療を理解し急性期における看護のあり方を学ぶ。受け持ち患者の手術室実習および救命救急センターでの見学実習を通して急性期における看護援助方法・役割、チーム医療について考えを深める。			
目的	手術を受ける対象とその家族を理解し、急性期の生命維持・健康回復への看護を実践するための知識・技術・態度を修得する。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 対象の発達課題と特徴、取り巻く環境に基づいて対象を理解する 2 対象の顕在・潜在する健康問題を身体・精神・社会的側面からアセスメントする 3 対象の顕在・潜在する健康問題の解決・回避に向けた個別的な看護計画を立案・実践・評価する 4 対象への看護実践を通して看護に対する価値を見出す 5 医療チームにおける看護の役割・機能を理解し反応する 			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
実習施設	学内、県立新発田病院(病棟、手術室、救命救急センター)			
評価	実習評価表に基づき評価する			
授 業 計 画				
日	時間	実 習 内 容		実習施設
1	5	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習オリエンテーション 2 受け持ち患者の決定 3 自己学習 		学内
2~8	45.5	<ol style="list-style-type: none"> 1 周術期にある対象の看護を実践する <ol style="list-style-type: none"> 1) ゴードンの 11 項目の視点からの情報収集とアセスメント <ul style="list-style-type: none"> ・手術を受ける対象に生じている器質的変化、機能障害をアセスメントする ・全体像を用いて周術期にある対象の健康問題を総合的にアセスメントする 2) 周術期にある対象の顕在・潜在する健康問題の解決に向けた看護を実践する <ul style="list-style-type: none"> ・最良の状態です手術を受けるための看護の実践 ・術後の合併症を予測し予防するための援助の実施 <ul style="list-style-type: none"> 術後合併症の原因と症状 術後合併症の徴候観察 術後合併症の援助 3) 対象にとって自立・自律した生活の再構築を目指した看護を考える <ul style="list-style-type: none"> ・退院後の健康レベルに合わせた生活の指導 4) 手術を受ける対象・家族が健康回復に向かうための看護の必要性を考える 2 対象の手術見学を行う <ol style="list-style-type: none"> 1) 術中の状態変化を理解し帰室後・術後の適切な観察を実施する 3 テーマカンファレンス 		新発田病院 病棟 手術室
9	6.5	<ol style="list-style-type: none"> 1 救命救急センター見学実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命の危機状態にある患者の看護を見学 <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急センターの役割と機能について看護を考える ・学びのレポート「私の考えるクリティカル看護」 		救命救急センター
10~ 11	13	<ol style="list-style-type: none"> 1 最終カンファレンス 2 実習のまとめ 		新発田病院 病棟

*詳細については、成人・老年看護学実習Ⅱオリエンテーションで説明する。

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ		時期	3年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 日数	2単位(70時間) 11日間
科目の概要	人生の最終段階にある対象とその家族を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルの4側面から総合的にとらえ、看護過程の展開をとおして人生の最終段階にある対象のQOL向上のために必要な看護を学ぶ。対象のライフスタイルと生活環境を踏まえその人らしい生活のあり方を考え、臨死期にある対象とその家族への看護師の役割・機能を考える。			
目的	治癒及び回復が困難な対象とその家族を理解し、その人らしい生が全うできるような看護を実践するための知識・技術・態度を修得する。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 対象の発達課題と特徴、取り巻く環境に基づいて対象を理解する 2 対象の顕在・潜在する健康問題を身体・精神・社会的・スピリチュアル的側面からアセスメントする 3 対象の顕在・潜在する健康問題の解決・回避に向けた個別的な看護計画を立案・実践・評価する 4 対象への看護実践を通して看護に対する価値を見出す 5 保健・医療・福祉における看護の役割・機能を理解し反応する 			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
実習施設	学内、県立新発田病院(病棟)			
評価	実習評価表に基づき評価する			
授 業 計 画				
日数	時間	実 習 内 容		実習施設
1	5	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習オリエンテーション／実習の概要と実習病棟の特徴 2 受け持ち患者の決定 3 事前学習 		学内
2～11	58.5	<ol style="list-style-type: none"> 1 人生の最期のときを支える看護を実践する <ol style="list-style-type: none"> 1) ゴードンの11項目の視点からの情報収集とアセスメント <ul style="list-style-type: none"> ・身体的、精神的、社会的、スピリチュアルの4側面の関連性 ・全体像を用いて全人的苦痛(トータルペイン)の視点から総合的にアセスメントする 2) 顕在・潜在する健康問題の解決・回避に向けた看護を実践する <ul style="list-style-type: none"> ・対象のQOLを高めるための援助 ・対象や家族の選択権、自己決定権の尊重 3) 対象や家族の全人的苦痛を最小限にするための安楽に向けた支援を考える <ul style="list-style-type: none"> ・苦痛緩和のための援助 ・キューブラー・ロスの死の受容過程 4) 対象の「その人らしさ」をとらえQOLの維持・向上のための支援を考える <ul style="list-style-type: none"> ・「その人らしさ」の理解 ・対象や家族の望むQOLへの理解 2 対象の関わりをとおして「生」と「死」について考えをしめす 3 テーマカンファレンス 4 最終カンファレンス 「対象の安楽に向けた看護で大切なこと」 5 実習まとめ 		新発田病院 病棟

*詳細については、成人・老年看護学実習Ⅲオリエンテーションで説明する。

科目名	老年看護学実習		時期	3年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 日数	2単位(70時間) 11日間
科目の概要	老年期にある対象を受持ち、時代背景に関連した生活史、人生経緯の多様性、価値観を尊重したコミュニケーションを図り、高齢者の特徴を理解する。高齢者を生活者として捉え、生活機能の視点から、加齢変化と疾患により、その人らしい生活を妨げる健康問題と対象の“もてる力”を踏まえて看護過程を展開し、老年看護の特徴を学ぶ。高齢者を取り巻く環境と家族を理解し、健康逸脱から回復を促進する能力を育み、対象のQOL維持・向上のため、多様な生活の場を支えるための保健・医療・福祉の役割とチーム体制を学ぶ。			
目的	老年期にある対象者とその家族を理解し、多様な生活の場に向けた看護を実践するための知識・技術・態度を修得する			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 老年期にある対象の加齢変化を捉え、その人らしい生活を送る上での健康問題と“もてる力”を理解する 2 老年期にある対象の生活機能に着目し、退院後の生活の場に向けた看護計画を立案し、実践、評価する 3 老年期にある対象の生活を支えるための保健・医療・福祉システムとチーム体制を理解する 4 老年期にある対象に実践した援助を振り返り、老年看護の価値を考察する 			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
評価	実習評価表に基づき評価する			
授 業 計 画				
日数	時間	実 習 内 容		実習場所
1	5	実習の概要と実習病棟・実習施設の特徴について説明を受ける		学内
2 ～ 8	45.5	病院で老年期における対象を受け持ち、看護過程を展開する <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の加齢変化・健康障害を踏まえ、尊厳・価値観を尊重したコミュニケーションを実践する 2) ライフサイクルにおける老年期の対象を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化 ・老年期の発達段階の特徴 ・対象の生きてきた時代背景と生活史 3) その人らしい生活を送る上で妨げている健康問題と“もてる力”を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・入院環境・病態・治療・加齢変化が高齢者に与える影響 ・高齢者のヘルスアセスメント ・ライフスタイルと生活環境 ・対象の目指す回復像 ・対象の強み ・サポートシステム(家族・社会資源) 4) 老年期にある対象の生活の場に向けた看護計画を立案し、実践、評価する <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の尊厳・価値観を尊重した援助 ・高齢者の生活機能を整える看護 ・対象の意思決定を支え、目指す回復像を踏まえた援助 ・ライフスタイルと生活環境を踏まえた支援 ・対象のもてる力・残存機能と自立を踏まえた看護実践 ・高齢者特有の健康障害とリスクマネジメント ・対象のQOL維持・向上のための支援 ・生活を継続するための家族支援 5) 対象の生活の再構築に向けた保健・医療・福祉システムの連携と病院における多職種の専門性とチームアプローチ、チームにおける看護師の役割について理解する 		新発田病院 リウマチセンター
9 ～ 10	13	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者施設のスタッフへ同行し、施設の機能と特徴、療養者の生活環境や実施されているサービスの実際について理解する 2 高齢者施設のスタッフへ同行し、保健・医療・福祉システムの連携と施設における多職種の専門性とチームアプローチ、チームにおける看護師の役割について理解する 		高齢者施設
11	6.5	学んだことを発表し、グループでディスカッションを行い、学びの共有を図る		学内

*詳細については、老年看護学実習オリエンテーションで説明する。

科目名	小児看護学実習		時期	3年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 日数	2単位(70時間) 11日間
科目の概要	健康な乳幼児の成長・発達に応じた日常生活の援助や、子どもを守り育てる環境について、2日間の保育園での実習から学ぶ。健康な学童期の成長・発達に応じての関わり方や学校保健の実際を1日間の小学校での実習から学ぶ。健康障害を持つ小児を受け持ち、成長・発達段階及び健康状態に応じた看護を通して小児とその家族に及ぼす影響について、看護過程を展開し学んでいく。			
目的	小児期にある対象とその家族を理解し、看護を実践するための知識・技術・態度を修得する。			
目標	1 健康な乳幼児の成長発達を理解し、保育の実際を説明する 2 健康な学童の成長発達を理解し、学校保健の実際を説明する 3 健康障害を持つ小児と家族を理解し、発達段階、健康段階にあわせた看護を実践する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
実習施設	学内、県立新発田病院(病棟・小児科外来・NICU)、保育園、小学校			
評価	実習評価表に基づき評価する			
授 業 計 画				
日数	時間	実 習 内 容		実習場所
1	5	1. 実習オリエンテーション 2. 実習要項など配布 3. 自己学習		学内
2~6	32.5	1. 小児病棟実習:小児期(0~15歳)にある入院患児を受け持ち、看護過程を展開する 援助は看護師の指導のもと実施または見学する 1)患児の状況や入院に伴う家族への影響を理解する 2)発達段階や健康段階に合わせたコミュニケーションを実践し、患児と家族と関係を理解する 3)患児の日常生活の援助を実践する 4)安全・安楽を配慮した小児看護技術を実践する 5)小児病棟の構造・設備から、事故予防・感染予防対策を理解する		新発田病院 病棟
7	6.5	1. 小児科外来・NICU 実習:援助は実習指導者の指導のもと、実施または見学する 1)小児科外来の特徴と看護の実際を理解する 2)NICUの特徴とハイリスク児の看護の実際や家族への援助を理解する		新発田病院(外来・NICU)
8	6.5	1. 小学校実習 1)養護教諭の指導のもと、健康な学童期にある子どもの成長発達や健康問題、学校保健について学ぶ		小学校
9	6.5	1. NICU・小児科外来実習:援助は実習指導者の指導のもと、実施または見学する 1)小児科外来の特徴と看護の実際を理解する 2)NICUの特徴とハイリスク児の看護の実際や家族への援助を理解する		新発田病院(NICU・外来)
10 ~11	13	1. 保育園実習:乳児・幼児の各年齢のクラスをローテーションし、保育園の日課に沿って実習を行う 1)乳幼児の成長をはぐくむために必要な保育環境を理解する 2)乳幼児の成長発達を理解する 3)乳幼児の基本的な生活行動の自立状況と年齢にあわせた援助のあり方を理解する 4)保育の実際を通して、発達段階にあわせたコミュニケーション方法を理解する		保育園

*詳細については、小児看護学実習オリエンテーションで説明する。

科目名	母性看護学実習		時期	3 年次 前期・後期
担当者	看護師として 5 年以上の実務経験を有する専任教員	単位(時間) 日数	2 単位(70 時間) 11 日間	
科目の概要	妊娠期の看護では、外来での妊婦健康診査の流れに沿って見学し妊婦その看護を理解する。産褥期・新生児期の看護では、病棟で妊婦および新生児を受け持ち、看護過程を展開し看護実践を行うなかで、褥婦・新生児その看護を理解する。全体を通して母性看護の大切なことを学ぶ。			
目的	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族を理解し、看護を実践するための知識、技術、態度を修得する。			
目標	1 妊娠各期の対象とその家族を理解し、妊婦に必要な看護を理解する 2 分娩期の対象とその家族を理解し、産婦に必要な看護を理解する 3 産褥期の対象とその家族を理解し、褥婦に必要な看護を理解し実践する 4 新生児期の対象とその家族を理解し、新生児に必要な看護を理解し実践する 5 母性看護を通して母性看護に対する価値を見出す 6 保健医療における看護の機能を理解し反応する			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
評価	実習評価表に基づき評価する			
授 業 計 画				
日数	時間	実 習 内 容		実習場所
1	5	1.実習の概要と方法を実習要項などを使用しながらオリエンテーションで説明を受ける。 2.DVD 学習を行い実習のイメージを持つ。		学内
2	6.5	講義や演習で学んだ妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護の実践をイメージし演習する。 DVD 学習を行い知識を深める。		学内
3～ 6	26	産褥期実習・新生児期実習では、受け持ち褥婦・新生児の情報収集、アセスメントを行い、アセスメントに基づいた看護計画を立案し実践する。		新発田病院 (病棟)
7	6.5	妊娠期実習では、妊婦健康診査の流れに沿って見学を行い、妊婦とコミュニケーションを図り妊婦健康診査の意義や保健指導の意義を学ぶ。担当させていただいた妊婦の身体的・精神的・社会的特徴を情報収集しアセスメントする。		新発田病院 (産科外来)
8～ 10	19.5	実習のまとめでは、病棟実習での実践の振り返りを行う。		学内
11	6.5	1.実習のまとめでは、病棟で受け持たせていただいた褥婦・新生児の看護を個人で発表しグループで共有する。 2.最終カンファレンスでは、臨地実習指導者参加の元、実習の中で学んだ母性看護で大切なことを個人で発表しグループ内で共有する。		学内 新発田病院(病棟)

*詳細については、母性看護学実習オリエンテーションで説明する。

科目名	精神看護学実習		時期	3年次 前期・後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 日数	2単位(70時間) 11日間
科目の概要	精神科病棟において入院患者との対人関係を発展させ、その振り返りを行うことで、対象理解や状況理解だけでなく、対人関係における自己の傾向を知る。 また、デイケアや障害福祉サービス事業所において地域で生活する利用者の社会参加の実態にふれることを通じて、精神障害者の地域における生活支援についての理解を深める。			
目的	精神に障害のある対象とその家族を理解し、看護を实践する知識・技術・態度を修得する。			
目標	1 精神に障害をもち入院している対象の人権擁護と看護師の役割について理解する 2 精神に障害をもち入院している対象の健康問題を把握し、必要な援助を实践する 3 対象との関わりを通して自己の内面の変化に気づき、自己洞察する 4 精神に障害をもちながら、地域で生活している人に必要な支援について理解する 5 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を理解し反応する			
ディプロマ・ポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を实践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
評価	実習評価表に基づき評価する			
授 業 計 画				
日数	時間	実 習 内 容		実習場所
1	5	実習オリエンテーション 病棟実習、デイケア実習、障害福祉サービス事業所		学内
2~5	26	1 看護過程の展開 1) 受持ちとなる対象1名を決め、看護過程のプロセスに沿って看護を展開する。 2) 病棟で行なわれている活動(レクリエーション、作業療法、SST など)に参加する。 3) 自分で体験した対象との一場面をプロセスレコードにまとめ、自己洞察をおこなう。 4) 病棟内のさまざまな患者の言動・精神症状・治療内容などから精神障害を持つ人々の特徴を学ぶ。		新発田病院
6~9	26	1 看護過程の展開 2 デイケア実習 1) 地域生活を送っている精神障害者とスタッフのかかわりを見学する。 3 最終カンファレンス 1) 実習における学びを発表し、学びの共有を図る。		新発田病院 デイケア
10	6.5	1 障害福祉サービス事業所 1) 事業所で行なわれている作業・活動を利用者とともに実施し、地域で生活している人に必要な支援について理解する。		障害福祉サービス事業所
11	6.5	実習のまとめ		学内

*詳細については、精神看護学実習オリエンテーションで説明する。

科目名	統合実習		時期	3年次 後期
担当者	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		単位(時間) 日数	3単位(105時間) 10日間
科目の概要	本実習は、専門分野の臨地実習における最終段階として位置づけ、チームにおける安全で効果的な看護を提供するために必要な看護マネジメントの実際を学ぶ。また、実務に則した一勤務帯における看護を学ぶと共に、多職種を理解を深める中で専門職としての看護実践のあり方や自己の課題を明らかにする。			
目的	人々の健康と生活を支援する保健・医療・福祉の連携を理解し、チーム医療の中で看護を実践するための知識、技術、態度を修得する			
目標	1 複数受け持ちを通して、多重課題における臨床判断及び看護の優先順位・時間管理を踏まえた援助を実施する 2 病棟における医療安全管理体制と具体策を理解して実践する 3 病棟における看護管理の実際を学び、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップについて理解する 4 地域連携および専門職間連携の実際を理解し、保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解する 5 専門職として倫理的判断のもと行動し、看護者としての自己の課題を見出す			
ディプロマポリシーとの関連	☑ 1. 豊かな人間力 ☑ 2. 看護を実践する力 ☑ 3. 探求する力 ☑ 4. 連携・協働する力			
評価	実習評価表に基づいて評価する			
授 業 計 画				
日	時間	実 習 内 容		実習場所
1	5	実習の概要と実習病棟の特徴について説明を受ける。		学内 新発田病院 リハビリセンター
2 ～ 7 午前	41.5	同行実習(病棟看護師長・リーダー・スタッフ)により、看護マネジメントの実際を見学から学ぶ。臨床判断の実際と時間管理、看護の優先順位の判断の実際、看護倫理の臨床場面への適用、医療安全対策の実際を見学から学ぶ。		新発田病院 リハビリセンター
7 午後 ～11	33.5	複数の患者を受け持ち、看護マネジメントを実践する。 複数の受け持ち患者に対する看護実践を行い、看護の優先順位・時間管理・医療安全対策を実施する。また、看護チームにおけるメンバーシップの実際を学ぶ。		新発田病院 リハビリセンター
12	6.5	入退院支援・保健医療福祉の連携の実際について、講義及び演習を通して理解する。 1) 患者サポートセンターの機能と役割 2) ときネットを含む保健・医療・福祉の連携の実際		学内
13	6.5	外来・検査室・退院調整 等で活動する看護師との同行実習から、継続看護における看護の役割と連携の実際、その必要性を理解する。		新発田病院 リハビリセンター
14	6.5	多職種の業務を同行見学する中で、チーム医療のための看護職と他職種との協働について理解する。その後、見学した内容を基に意見交換を通して学びを深める。		新発田病院 リハビリセンター
10	5.5	1 今回の実習で学んだことを発表し、検討することで学びの共有を図る。 2 発表内容方、保健医療福祉チームにおける看護の役割・自己の課題を明らかにする。		学内

*詳細については、統合実習オリエンテーションで説明する。